

# 共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2118号 2024年10月20日

日本共産党 根室市議団  
根室市市林町4-203 TEL0153-23-6023

「北方領土根室研究会」の長年の積極的な活動状況を  
会長の類瀬さん(2年)と日浦さん(1年)が説明されました



## 若い世代から見た「北方領土」問題 市議会特別委が北方領土根室研究会と懇談

10月15日、根室市議会の北方領土・水産対策特別委員会は根室高校「北方領土根室研究会」と意見交換を行い、若い世代がどのように領土問題に取り組んでいるのか学びました。

根室市議会の北・水特委員会(本委員長と根室高校の北方領土根室研究会との意見交換会は今回はじめてかと思えます。

研究会から二人が顧問教諭と参加され、これまでの活動内容についての報告のほか、実際の「出前講座」を演じて頂き、地元高校生がどのように領土返還運動に取り組んでいるのか話を聞かせていただきました。

同研究会は、2008年より全国各地での出前講座を開始。またFMラジオでの情報発信やさんま祭りなどイベント会場での署名活動、内閣府や他団体との協働事業、さらに昨年から根室振興局の主導で管内の高校生との合同プロジェクトを展開するなど、近年はその活動内容をより豊かに発展させています。

ただコロナ禍以降は会員減少(現在8名もあり、市内小学校への出前講座や新たな活動等を通じて認知度を再び高めていきたいとしています)。



意見交換のなかで、若い世代から見た北方領土問題として、これからどういった点が課題と考えているのかという質問には、「元島民の高齢化で北方領土問題の風化につながりかねない。積極的なアピールを広げ、北方領土に関わる人を増やしていかなければならない」と指摘。

また啓発活動に関して上の世代に期待することとして、「(自分自身の経験として)小学校では北方領土を知る授業があったが、中学校以降はほとんど機会が無くなった」として、北方領土学習の機会を増やすことが必要という声が挙げられました。

こうした状況について同研究会顧問の富谷先生より、「特に高校以降は『断絶』状況になっている。小中高で領土学習をしっかりと行い、一方で全国の高校生同士が交流する活動を盛んにしていくことが大切」として、さらに「北方領土問題に限らず、高校で取り組んでいる様々な活動についても全国的に交流し、広げていく上で、国の十分な財政支援、サポートが必要だ」という意見がいただきました。

このほかSNSを活用した情報発信について、いきなり北方領土のことを直情的に発信すると固い印象になって閲覧されない。例えば観光など別なテーマから北方領土のことに繋げるなど、多角的にアプローチすることが必要、という研究会OBの話も紹介されていました。

## 根室の海の豊かさが危うい？

今年も根室市民大学が開催されています。今年の総合テーマは「根室の海の豊かさとその将来」。「30by30目標」に向けて環境省は「野付半島・風蓮湖・根室半島」を国立公園への新規指定候補に挙げています。昨年の根室市民大学のテーマが「湿原」だったので、今年は「海」がテーマになったそうです。

第2回目の10月11日は、国立環境研究所の阿部博哉博士が「道東の海洋環境と生態系：気候変動に備える」をテーマに講演されました。

阿部博士は根室の平均気温の上昇はこの100年で+0.9℃だが、近年の気温上昇が特に高く、新たな段階に入ったと指摘。この気候変動による海水温の上昇、集中豪雨や海洋の酸性化が生態系にどのような影響を与えるのか。阿部博士らは厚岸湖など道東の汽水湖の調査を行い、コンピューター上で漁業資源への影響がどうなるかシミュレーションができたという研究結果が報告されました。

また参加者からは近年のコンブ不漁があり、沿岸海域における海洋調査の充実が必要との質問も挙げられていました。



第2部のパネルディスカッションの様子。  
この対談の中で牧野教授も話していましたが、このような場面で自分の意見をきちんと言え今の高校生って、本当にすごいなあと感心しながら聞いていました。

前半は東京大学大学院教育学研究科の牧野篤教授が「VUCA時代の『ふるさと』づくり」をテーマに講演されました。

牧野教授は「これまでの学校教育ではふるさとに残る者は負け組になる競争社会。ふるさとを捨てる学力を身につけさせるものだった」と指摘。今の若者は生きがいを得て、他者から認められることを大切に「承認欲求の時代」になっている。その社会では自分がふるさとから大事にされたという経験、承認欲求が満たされることで、子ども達が大人になってから、今度は自分がふるさとを大事にしようとして地域社会を担うことにつながる。社会教育はそうした地域の「基盤」を作っていくものだ、という趣旨の話をされました。この他、様々な観点から社会が大きく変革している状況について解説をされました。

後半は社会教育委員長、根室に移住して起業した女性、新体育館建設の市民論議に関わる高校生3名が登壇して、根室のまちづくりについての対談が行われました。

10月8日、根室市教育委員会は「根室市公民館シンポジウム『人づくりとまちづくり』」を市総合文化会館で開催。高校生や教育関係者はじめ多くの市民が聴講しました。これからのまちづくりのあり方について考える大切な機会となりました。

将来の予測が不可能な「VUCAの時代」において  
これからの社会、ふるさとをどう考える

※30by30目標：2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。2022年に生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で採択。(環境省ホームページから引用)

※VUCA(ブーカ)は物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状態を指す造語。移り変わりが激しい時代や不確実な要素が多い状況を示す。(この注釈はNECのホームページから引用・編集しました)